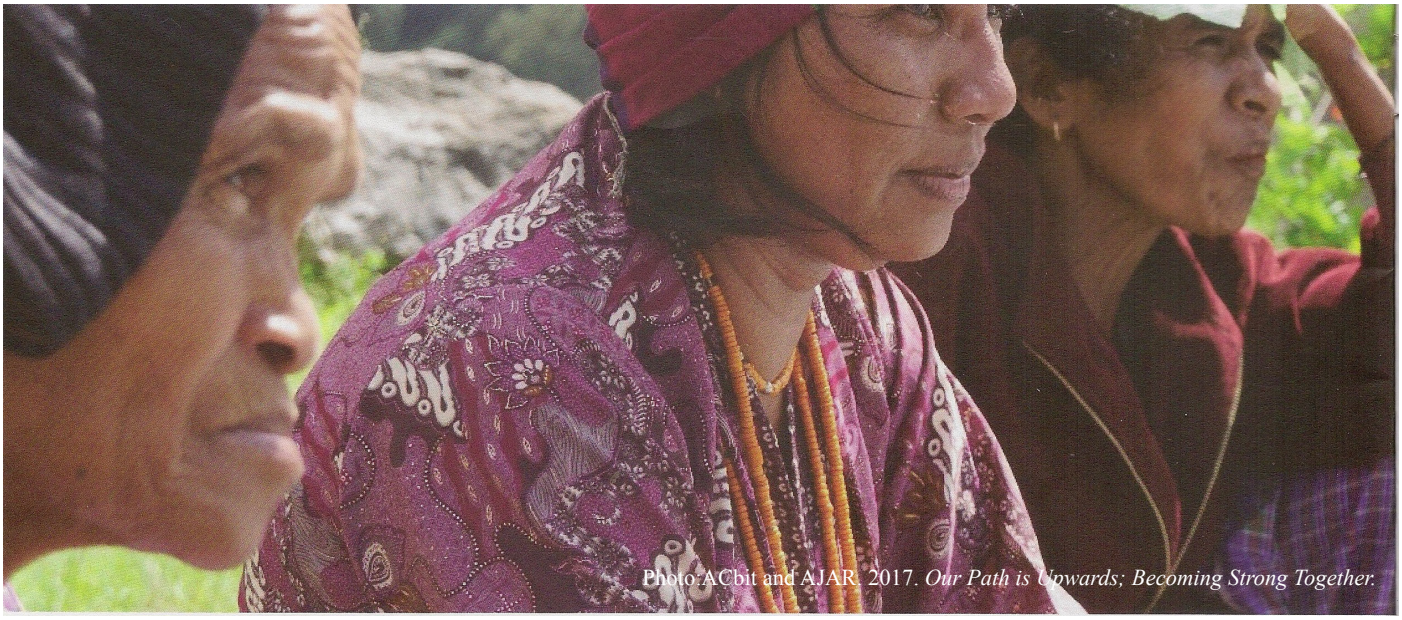
Photo:ACbit and AJAR. 2017. *Our Path is Upwards; Becoming Strong Together.*

● 東京女子大学女性学研究所公開講演会●

国連による
住民投票 20 周年

癒やしと正義

～東ティモールにおける紛争後の性暴力被害者支援～

講演者：マヌエラ・ペレイラさん（NGO ACbit 代表）

日時：7 月 5 日（金）10:55-12:25

一般公開

場所　：23101 教室（予定）

主催　：東京女子大学女性学研究所

解説及び通訳：古沢希代子（経済学専攻教員）

聴講料なし。会場調整のため、参加ご希望の方は 7 月 3 日までに古沢（furusawa@lab.twcu.ac.jp）までご連絡下さい。

1999 年 8 月、東ティモールは国連が実施した住民投票で独立を決定し、24 年に及んだインドネシアの占領統治から解放されました。しかし、紛争による死者は 10 万人から 20 万人、住民投票の前後では 1500 人もの人が命をなくしました。また、軍事占領の下、多くの女性が性暴力被害を受けました。被害を訴えても、加害者は裁かれず、そのため名誉も回復されません。また、被害者や子どもに対する差別があります。被害者の中には独立運動組織を支援した女性たちもいますが、彼女たちの貢献は補助的なものとしかみなされず、社会の視線は冷たいものがあるのです。

NGO のアクビット（ACbit）は、被害者につきそい、被害者が主体的に参加できるようなかたちで歴史の真実を掘り起こしながら、被害者が抱えるトラウマ、不処罰、差別、生活の困窮、子どもの市民権といった重層的問題に取り組んできました。本講演会では、ACbit がどのように被害者と歩み、闘ってきたのかをお話いただき、国際社会の果たすべき役割を考えます。

■マヌエラ・ペレイラさん

ガジャマダ大学社会政治学部卒業（1994 年）。東ティモール女性連絡フォーラム事務局長、国際移行期正義センター東ティモールプログラムコーディネーター、国家選挙管理委員会委員を経て、2013 年より ACbit（アクビット）の代表。

■アクビット（ACbit）

2013 年設立。目的は CAVR（受容真実和解委員会）の報告書で示された勧告の実施を求めながら、被害者がお互いに励まし合い、直面する問題を一緒に解決していくというものです。